

令和5年3月19日(日) 開通予定

東広島バイパス 海田西IC～海田東IC
安芸バイパス 瀬野西IC～八本松西IC

～国道2号の渋滞緩和に期待～

国土交通省が整備を進めてきた、東広島バイパス（海田西IC～海田東IC）と安芸バイパス（瀬野西IC～八本松西IC）が令和5年3月19日（日）に開通する。

今回の開通により、東広島・安芸バイパス（延長17.3km）が全線開通となる。

【開通予定日】
令和5年3月19日（日）

【開通予定区間】
東広島バイパス（海田西IC～海田東IC）／延長1.6km
安芸バイパス（瀬野西IC～八本松西IC）／延長8.4km

【開通による整備効果】
◇並行路線等の交通混雑の緩和
東広島・安芸バイパスの並行路線においては、国道2号の上瀬野1丁目交差点を先頭とした速度低下や、東広島バイパスの未開通区間（海田東IC～海田西IC）における速度低下が生じている。

東広島・安芸バイパスの整備により、八本松西ICから海田西ICまでの延長約17kmのバイパス本線が繋がり、円滑な交通が確保され、旅行速度の向上・所要時間の短縮が期待される。

◇生産活動の効率化
東広島市には大手自動車メーカーの関連事業所が集中しており、これまでの東広島バイパスの開通や東広島市内の産業団地が造成されたことに伴い、東広島市内の企業立地は年々増加している。

広島市の完成自動車工場へ部品輸送を日々行っているが、朝夕の混雑時は時間に余裕を見込んだ早めの運行をする等、非効率となっており、東広島・安芸バイパスの整備により、輸送時間が短縮されることで、生産活動の効率化が期待される。

◇観光周遊の促進
広島市や廿日市市には、平和記念資料館や広島城、厳島神社等の全国を代表する観光施設が多く立地しており、休日には多くの来訪者で賑わっている。東広島市は酒造りが有名であり、新たな観光拠点として道の駅「西条のん太の酒蔵」が立地した。

観光施設へのアクセス性や観光範囲の拡大・滞在時間の増加等、東広島・安芸バイパスの整備による観光面への期待が大きくなっており、整備に伴う観光周遊の促進によって各地域の観光活性化への寄与が期待される。

◇空港利用の促進・周辺地域の活性化
広島空港利用者の約5割は発着地が広島市内であり、交通手段は道路利用関連が約8割を占め、山陽自動車道等を利用してアクセスしている。しかしながら、山陽自動車道は渋滞や通行止めにより、令和元年（令和3年）にかけて約80便／年の空港バスが運休しており、安定した運行ができていない状況にある。

東広島・安芸バイパスの整備により、迂回路の速達性や定時性が確保され、空港利用の促進や周辺地域の活性化が期待される。

◇三次救急医療機関への救急搬送活動の支援
東広島市には高度な医療が受けられる三次救急医療機関がなく、重篤疾患の患者等は広島市内の県立広島病院等の三次救急医療機関に搬送しているが、国道2号経由では大きく搬送に時間が掛かることが課題となっている。

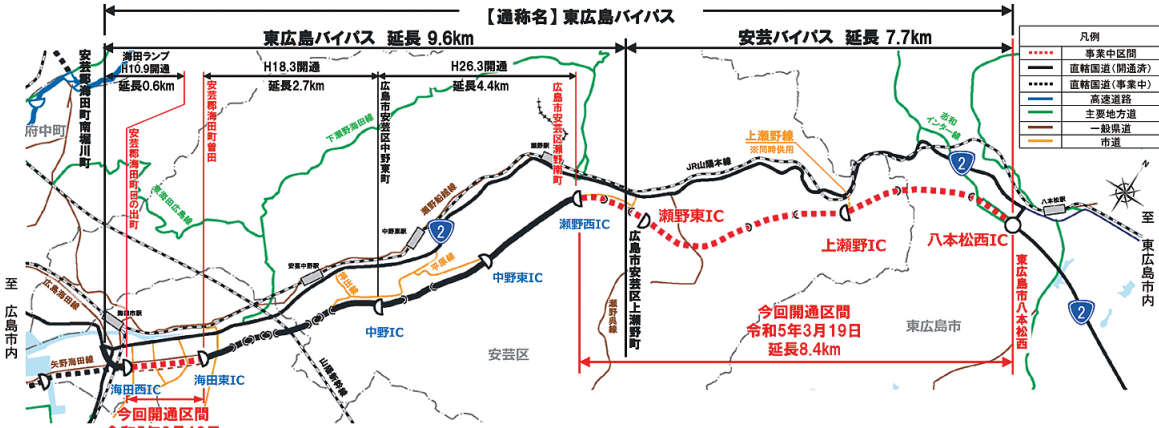
東広島・安芸バイパスの整備により、三次救急医療機関へのアクセス性が向上するほか、山陽道とのダブルネットワークによる救急搬送経路の確保により、救急搬送活動の支援が期待される。

◇交通分散による死傷事故の減少
東広島・安芸バイパスに並行する国道2号で発生した死傷事故は、渋滞等に起因する追突が約7割を占めている。また、県内直轄国道と比較して約1.5倍の追突の死傷事故率となっており、県内でも追突事故の危険性が高い道路となっている。

これまでに開通した東広島バイパスの区間では、並行する国道2号の交通量の減少に伴い、死傷事故件数が減少している。

今回開通予定の東広島・安芸バイパスの整備により、山陽道や国道2号等の交通について重層なりダンダンシーが構築され、安定的で円滑な地域間移動への寄与が期待される。

◇災害時のリダンダンシーの確保
平成30年7月豪雨では、山陽道が土砂災害により約9日間通行止めとなり、並



行する国道2号では平原橋付近の道路洗掘により約15日間通行止めとなったが、東広島バイパスにより、地域の東西交通軸が確保され、早期道路再開、道路復旧に寄与した。

東広島・安芸バイパスの整備により、道の駅へのアクセス性が向上することで、商業・観光振興等の地域活性化の中心地として機能するだけでなく、災害時の渋滞にまぎまぎせずすむ。一等の日常生活や娯楽、観光等、生活の様々なシーンについて、東広島・安芸バイパスの開通効果が期待されている。

「朝の渋滞が減って通勤

令和5年3月25日(土) 開通予定

東九州自動車道 清武南IC～日南北郷IC

～東九州道、さらに南へ！～

国土交通省が整備を進めてきた、東九州自動車道（清武南IC～日南北郷IC）が令和5年3月25日（土）に開通する。

【開通予定日】
令和5年3月25日（土）

【開通予定区間】
東九州自動車道（清武南IC～日南北郷IC）／延長17.8km

【開通による整備効果】
◇災害に強いネットワークを構築
東九州自動車道（清武南IC～日南北郷IC）に並行する国道220号には、異常気象時の事前通行規制区間が存在し、過去15年間で79回の全面通行止めが発生した。

令和3年9月の斜面崩壊時には、35日間の通行止めが発生した。

また、並行する国道220号の約4割は津波浸水想定区域であり、津波発生時には通行止めのリスクがある。

東九州自動車道の開通により、災害に強いネットワークが構築され、大規模災害時には緊急輸送路としての活用が期待される。

◇安全・安心な救急医療体制を確保
宮崎市には、第三次救急医療施設（宮崎大学医学部附属病院、県立宮崎病院）や宮崎県唯一の二次脳卒中センター（PSC）コア（潤和記念病院）がある。

東九州自動車道の開通により、日南市から第三次救急医療施設等への救急搬送時間が短縮され、救命率の向上が期待される。

◇広域周遊観光ルートを形成
今回開通区間である宮崎市・日南市は県内有数の観光地を有することに、例年100万人程度が訪れるプロスポーツのキャンプ地となっており観光客が多い地域となっている。

また、油津港では世界最大級のクルーズ船（22万ト



令和5年3月25日(土) 開通予定

下北半島縦貫道路 むつ南バイパス むつIC～むつ尻屋崎IC

～洪水・津波浸水区域の回避～

青森県が整備を進めてきた、下北半島縦貫道路 むつ南バイパス（むつIC～むつ尻屋崎IC）が令和5年3月25日（土）に開通する。

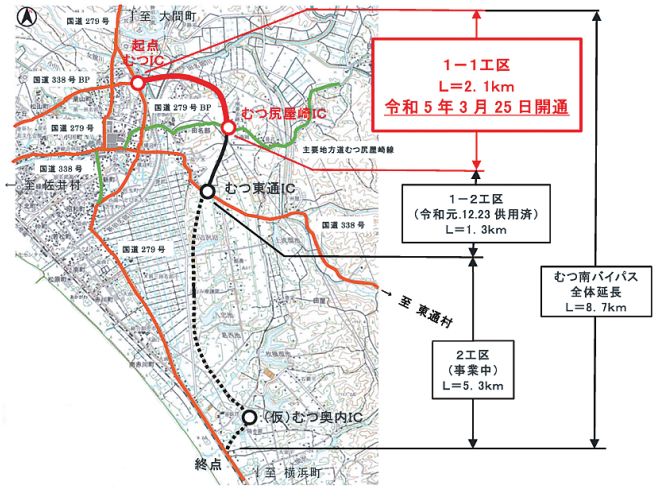
【開通予定日】
令和5年3月25日（土）

【開通予定区間】
下北半島縦貫道路 むつ南バイパス（むつIC～むつ尻屋崎IC）／2.1km

【開通による整備効果】
◇洪水・津波浸水区域の回避
むつ市街地の現国道は、洪水・津波発生時の浸水区域を通過している。

むつ南バイパスの開通により、浸水区域を回避し、盛土構造で通過することにより、災害に強い道路ネットワークを形成する。

◇むつ市街地の交通混雑の緩和
むつ南バイパスの開通により、むつ南バイパスと国道338号バイパスが直結



国土交通省では、毎年8月を「道路ふれあい月間」として、道路の愛護活動や道路の正しい利用の啓発等各種活動を特に推進しているが、この一環として、令和5年度「道路ふれあい月間」推進標語を広く一般から募集する。

道路は、国民の日常生活や経済活動に欠くことのできない重要な公共施設だが、あまりにも身近な存在であるため、その役割や重要性が見過されがちである。

そこで、この推進標語の募集を通じて、道路の役割や重要性を改めて認識していただくことを目的としている。

《募集テーマ》
道路は、生活の向上と経済

令和5年度 「道路ふれあい月間」 推進標語募集

優秀賞2作品
《応募資格》
小学生以上
《応募期間》
令和5年3月24日（金）まで（当日必着）
《応募部門・賞》
最優秀賞1作品
優秀賞2作品
（中学生の部）
最優秀賞1作品
優秀賞2作品
（小学生の部）
《表彰》
「道路ふれあい月間」期間中に国土交通省から賞状及び楯を贈呈する。
《主催》
国土交通省

詳細は https://www.mlit.go.jp/road/road_fr4_000144.html